

## 震災日記 Part 3

重井医学研究所附属病院小児科 小川 誠

### 【日 記】

5月12日に第2回目の診療支援から帰って、通常勤務、日直、ひまわり号と休む間もなく5月26日から始まる日本小児神経学会に参加すべく早島から横浜に向けて出発。

この時、密かに吉岡春菜先生から5月29日から31日まで渡波小学校での診療支援へ向かうよう指令を受けていた。前回の様子から、快適な宿泊環境があるものと考え、寝袋等は持参せず、旅行鞆1個をもって出発。



4月7日 リュックと鞆



5月5日 リュック



5月26日 手提げ鞆

### 5月28日（土）

ジャパンハート（JP）仙台事務所から電話。前回利用したグループホームでの宿泊が無くなったので、避難所保健室で寝てもらいますとのこと。寝袋が無いと答えたら、事務所から JH の物を運んでおきますと返事。・・・嫌な予感。明日は始発で行こうかとも考えたが、やはり予定通り昼到着便にすることにした。

### 5月29日（日）

午前8時：東北新幹線「はやて」に連結されている秋田新幹線「こまち」に乗って仙台へ。車内はがらがら。通常時は約1時間30分だが、震災の影響で約2時間強かかって到着。仙台駅は人でごった返しており、とっても賑やかな印象。



こまちの外観と車内  
4列シート

午前10時37分：仙台駅から高速バスに乗って約1時間10分かかって石巻駅に。7割程度の乗車。朝、夕の通勤混雑時は3時間以上かかるが、昼間はスムーズ。

午後0時：駅からは JR 代行バスとミヤコーバスが出ているが、時間が合わないためタクシーで渡波小学校に向かった。途中岡山県医師会が活動中の港小学校の前を通った。幹線の女川街道は冠水地帯と信号の復旧が出来ていないところがあったが、瓦礫や車はほぼ取り除かれて

いた。

前回と一緒に働いていた竹原 Ns と再開。休み無くずっと働いていたとのことだが、とっても元気。そして、柴野先生と今村先生と一緒に活動していた沼里（ヌマリ）Ns, 山口から来ている久野 Ns と合流し。雨だったが、日曜日のため北原照久さんらの親父バンドがトレーラーで演奏そており、横では築地から食べ物のテントが出ていた。



トレーラーで親父バンドの演奏



築地の炊き出し

午後の診療に参加。前回との変化は、子どもの診察が全体の3割以上に増えていることと、院外薬局への処方ほぼ100%, 1階にある救護所と2階以上が土足禁に。

本日の担当：名古屋大学（リーダー；4大学チーム）、岡山日赤、石川社会保険病院、JH、薬剤師会（1名）。

今回はヌマリ Ns が車を持参しているの、石巻日赤での夕方ミーティングに参加することになった。日曜日の雨ということで、渋滞もなく早く着きすぎた。会議室に藤原紀香がいると聞いて、岡山日赤 Ns と記念写真を撮った。JH の Ns からは恥ずかしいから止めてくれと言われたため、撮影を依頼した。



明るい日赤 Ns

真面目な？ JH の Ns

石井 Dr から東京での合同会議の報告があった。震災初日から、全救護所でのアセスメントシートがきちんと記載されているのは石巻地区のみで、今までも無かったことだと高く評価されたとのこと。今後の震災にきちんと生かすようまとめますといわれた。

現在の問題点としては、

- ① 今の診療形態は「救護所」であり、通常は2週間程度で閉鎖されるので、現在の状態が特殊である。仮設診療所をつくり常勤医師を置くようにしたい。今のところ、2カ所が予算化されている。
- ② 救護所の統合、撤退を進めていく。現在4カ所有るのを2カ所にしていく。渡波小と湊小が「ムラ」になっている。撤退への問題点は足の確保が出来ていないこと。
- ③ 気温が暑くなり、ハエ等の衛生面での問題が出てくる。仮設住宅建設との時間の競争。

## 5月30日（月）

午前7時：避難所の班長会議。本部の石井 Dr がやってきて、救護所は全国からのボランテ

ィアによって支えられているので、いつまでも続けられない。被災者の医療費無料化は来年の2月まで伸びる見込みなので、既存の診療所や今後つくられる仮設診療所に自分で行くようになると説明があった。台風から移行した温帯低気圧の関係で大雨と強風が本日は一杯続くため、冠水等に関する注意があった。

午前9時30分：仮設診療所については隣の万石浦中学校に、タイから搬送中のコンテナが設置されるとのこと。現状の需要を考えれば渡波地区に設けるのが筋ではないかと、現場の意見を本部に持っていくことになった。

JH久野Ns（山口県）に代わって山口Ns（京都府）が赴任。2週間の休みをとって夫（気仙沼の本吉地区で一般ボランティア）と共に来た。帰りに温泉に寄っていくとのこと。瀧院長と同じ発想でうらやましい夫婦。

午後0時15分：昼のミーティング。岡山日赤チームが全面撤退。暴風雨のため仙台で一泊した模様。

悪天候のため、在宅から炊き出しに出てこれられないため、余ったカレーをいただいた。炊き出しのために2ヵ月以上滞在している人がいると



聞いて、頭が下がる。おいしかった。



沼里 竹原 久野 山口



岡山日赤 金沢社会保険 名大 JH

暴風雨が続き、窓ガラスが割れたり、仮設トイレが倒れたり大変だった。

午後3時30分：夕方ミーティング。6月から渡波小（280名）と万石浦中（137名）の救護活動が一本化されることの確認。JHから臨床心理士2名が来て活動。中学1年の女の子に行ったことの報告を受ける。震災で母を亡くしており、バタフライ・ハグという手法を用いてカウンセリングを行った。経過を聞いていて涙が出る。

夕方から停電。体育館でニューヨークのジュリアード音学院の学生の演奏会が開催。日暮れには懐中電灯で照らしていたが、途中から電力が復旧。

午後7時：北海道美瑛町への招待旅行の抽選会。これは竹原Nsの個人的なつながりで美瑛町ペンション組合の方達からの招待だったが、希望者が60名と多かったため町役場を動かして全員招待が可能になった。想いは通じるもの。みんな大喜び。

午後8時：車で約30分の道の駅にある温泉施設に向かう。これは、市の臨時職員で自らも体育館に泊まり込んでいる高橋館長を休ませる目的もあった。帰りに焼き鳥とビールを一杯いただく。彼は津波から目の前で母親を失った。妻子を市内の親戚の家に預けて、自分は避難所で十分な睡眠もとらずに働き通し。クローン病にも罹っており、今日は午前中にキャンパスのスタッフに市立病院仮設診療所に連れて行かれた。皆が彼に感謝し、彼の体を気遣っている。2時間程の間だったが、リフレッシュしてもらえたかな。

## 5月31日（火）

朝から晴天。昼まで診療をして、仙台で牛タンを食べる計画を立てた。3週間いた竹原 Ns, 2回目の支援で10日いた沼里 Ns は24時間の避難所生活をしていたせい、みんなの人気者で別れが延々と続いた。田中 Ns 一人を残して出発。

ロイヤル病院に3週間いる Ns を拾って仙台事務所に。駅の牛タン横丁で遅い昼食。厚い牛タンは絶品。

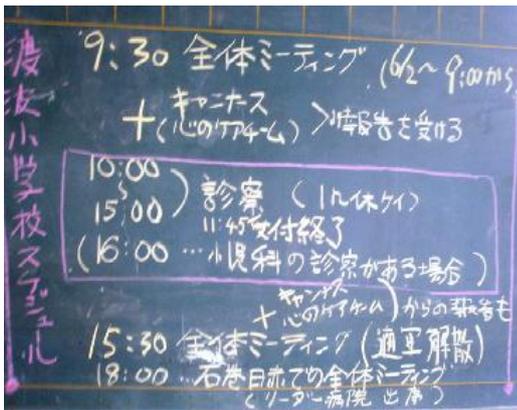
午後4時30分発のやまびこで東京へ。のぞみを乗り継いで、午後10時55分に早島駅到着。疲れた。明日の仕事が待っている・・・。



沼里 Ns 館長



キャンナス JH 名大  
(皆若くて美形)



チ

1日のスケジュール



名大  
ーム (中部電力?)

「今要るのは人より車だ」をアピール

## 【感想】

渡波地区は着実に復興してきている。仮設住宅や二次避難によって、小学校での避難者も徐々にではあるが減少してきている。医療も、石巻市街地では確実に回復してきているが、海岸に近い湊小学校や渡波小学校周辺では大きな変化は見られない。

「救護所」から「仮設診療所」への流れができていくが、常勤医の確保は困難ではないかと思う。もともと医療過疎地域なので。とはいっても、地元の人たちの間ではいつまでも好意に甘えてはいけないとの思いがある。生活環境については、上水道は1カ所のみで、下水道は復旧の見込みがない。仮設トイレ、自衛隊の風呂、床に寝ていることから改善は無い。数キロ離れた内陸部では、普通の生活が戻っており、巨大スパイオンは満員の盛況である。仮設住宅ができて、生活の復旧までは時間がかかりそう。

医療支援は今回で最後と認識している。今後は心のケアに重点を移して継続することが必要と思う。現場をみて、現地の人々の心に直接触れる機会は滅多にない。貴重な経験が出来て幸せだし、したくても出来なかった人は気の毒に思う。考えたら即行動に移すことは、医療現場では非常に大切なことで、チャンスは一瞬で通り過ぎてしまうようだ。一緒に働いた Ns は共に28歳。側で見ていて、ものすごい成長を遂げている。貴重な財産となったようだ。